

入賞

## フルーツと未来を拓く！ 福島マラソン

京都教育大学附属京都小中学校

たかだ なる  
高田 七瑠

私は2025年8月1日から8月3日まで開催された、福島学カレッジに参加しました。そこでのフィールドワークで、福島県の震災の記憶を後世に語り継いでいる双葉プロジェクトの方たちに話を伺う機会がありました。その方たちから「高齢化が進み、若い人たちが街に入っていない」という声を聞きました。また、実際に街を歩いていると、私が住んでいる京都と違い、人が少なくシャッターがおりている店舗が多かったため、すこし寂しいように感じました。その時、私は福島の町が今後もっと発展していくためには、若い世代にたくさん住んでもらう必要があると思いました。若い世代に選ばれる町になるには、福島県の魅力を全国に発信し、より多くの人に知ってもらうことが重要です。

そこで私は、全国に福島の魅力を発信するためのアイデアを二つ提案します。一つ目は、「未来を拓く！ふくしま復興マラソン（仮称）」の開催です。都市マラソンは、全国各地からランナーやその観戦者が現地を訪れるため、経済効果がとても大きいスポーツだと思ったのでマラソンを選びました。マラソンのコースには、福島県の魅力を感じられるスポットを盛り込んだり、コースの中の給水・補食スポットで、福島県の特産品を提供することで、ランナーや観戦者に福島県の魅力をPRすることができると思いました。また、毎年開催していくことで福島県が復興していく姿を多くの人に見てもらえるきっかけになるのではないのでしょうか。

二つ目は、福島県の特産品を使った新しい商品の開発です。福島県は「フルーツ王国」とも呼ばれていて、もも・なし・りんごなどのフルーツが有名であることを福島県のことを調べていくなかで知りました。このことを活かし、例えば若い世代に人気が出るようなコスメブランドを立ち上げたり、福島県の特産品であるフルーツの香りを使用する香水を作ったり、フルーツの成分を取り入れた化粧品を、開発するなど既存の特産品と全く異なる分野のものをかけ合わせて多くの人の手に届く、キャッチーな商品を産み出すことも面白いのではないかと思います。また、若い世代は情報の拡散力があると思うのでターゲットを若者にし設定し、可愛いやおもしろい、買ってみたい！と感じてもらえる商品を販売できれば、商品を通して福島県の特産品や魅力について多くの人に知ってもらえると考えました。

私が提案した二つのアイデアは、すぐに若い世代を福島県に呼び込む結果には結びつかないかもしれませんが、「何か面白そうなことやっているな」「パワーのある町だな」と多くの人に興味を持ってもらうことは、必ず地域の活性化や町の発展に繋がっていくと思います。私自身、若い世代の一人なので今後も福島を応援して、その魅力を色んな人に伝えていけたらいいなと思います。